

豪雪地帯として知られる、みなかみ町藤原地区に位置する湯ノ小屋温泉。例年より1カ月ほど遅れたが、今季も白銀の世界に包まれた。雪見をしながらの入浴はこの時季ならではの楽しみだ。同温泉の旅館「源泉掛流しの湯めぐりテーマパーク 龍洞」（同町藤原）は18もの貸し切り露天風呂を備え、景色を独り占めできる。

利根川支流の木の根沢に沿って立つ同旅館。18カ所の露天風呂は入り口に札を掛けて

北毛発

温泉百景

湯ノ小屋 18の貸し切り露天風呂

白銀の世界独り占め

貸し切りにする。離れにある一カ所を除き、宿泊客は24時間入浴できる。

沢の流れを間近に望む露天風呂「川龍」「音龍」、20人が入れるほどの広さを持つ「大龍」の三つが特に人気だ。このほか、竹林をイメージした「竹龍」、浴槽の床が光る「星龍」などそれぞれの浴場が趣向を凝らして造られている。

貸し切り風呂を巡るスタンプリーも実施している。何度か訪れて制覇する人が多いが、中には日帰りで全て回る人もいるという。

もともとは日帰り温泉だったが、宿泊の要望が高まり1990年に旅館営業を開始。次第に貸し切り風呂の数を増やしていった。周囲を気にせず、水入らずでさまざまな温泉が

2014年に、それまでの「秘湯の宿 龍洞」から現在のテーマ

パークを付した名称へ変更した。女将の大坪きみ子さんは「小さな子どもがいるファミリー層も立ち寄りやすくするため」と理由を話す。一家だんらんの場としても活用してもらいたい考えだ。

木の根沢の雪景色を望む露天風呂「川龍」

